# タイにおける都市化と食料・農業問題
## ――バンコクにおける食事情――

平成 25 年入学
派遣先国：タイ王国
吉田　祐貴

キーワード：タイ，市場，食，タイ語，臨地教育，報告書

### 対象とする問題の概要

近代における経済の発展に伴い，都市が現れてきた。現在では，これまで途上国といわれてきた国々においても都市化は見られ，都市の数はもちろんこと，その規模も増大しつつある。一般的に都市は経済の中心地として考えられがちだが，同時に商業や流通の中心としての側面を持ち合わせており，多くの資源と人口を抱えてもいる。

しかし，都市に集積する資源の大半は都市の周縁に位置する農村からやってきている。さらに都市に暮らす生活者たちは，自分の食料を農村に依存することによってはじめて，生活を営むことが可能となる。よって，都市においては，資源，とりわけ都市生活者にとっての食料を確保していくことが最優先の課題になるだろう。

そして，今後も都市化は進み，それに伴う都市生活者の数も増大していくことが考えられる中で，生産の場である農村も含めた枠組みの中で都市における食料・農業問題を考えていくことが，今日求められているといえる。

### 研究目的

日本においては，こうした食料・農業問題に関する研究の蓄積は多くみられており，食料自給率や輸入農産物の安全性などの問題点などが指摘されてきた。他方では，国産農産物の高付加価値化などの農家の適応事例なども報告されている。

今回の調査地であるタイは，日本とは対照的に，19 世紀後半から現在に至るまで農産物の輸出国として，主に国際市場向けの農産物の生産を通して発展してきた国である。また，近年の目覚ましい経済成長から首都バンコクをはじめ，各地で都市化が進んできていることから，輸出生産国としての歴史を持つタイにおいて都市の食料の確保に付随する食料・農業問題や農家の適応について明らかにすることが本研究の目的である。

今回の派遣においては，今後の調査に必要となるタイ語の習得を重点的に行い，首都バンコクの市場やスーパーマーケット，飲食店を中心に訪ね，農産物の流通の現状に関して調べることを主な目的とした。

### フィールドワークから得られた知見について

まず，タイ語の習得に関して，Unity Language School という語学学校にて，9 月から 11 月の 3 か月間，タイでの生活に必要となる日常会話ならびにタイ文字の読み書きの授業を受けた。

タイ語は，日本語の“ア，イ，ウ，エ，オ”に該当する 5 つの母音のほか，日本人には慣れない 4 つの音を合わせた 9 つの音で構成されており，5 つの声調（イントネーション）[1]があり，有気音と無気音[2]の区別のある子音があるなど日本語と異なるところが多く，発音や聞き分けの難しい言語であった。

次に農産物の流通に関してだが，一般的には，写真 1 のような常設の市場（タラート）で売買がなされている。首都のバンコクでもこうした市場はいくつか見られるが，十分なスペースの無いところでは，路肩に簡単な屋台が並ぶような仮設の市場が日中にかけて多く見られる。ここでは，肉類や果物が無造作に置かれ，キロ売りでの販売されていることが多い。

近年では，バンコクをはじめとした都市部において，大型スーパーマーケットの進出も見られてきている。スーパーにおいては，日本と同様にパック包装がなされるなど鮮度を保つ工夫がなされており，その一角には有機野菜のコーナーが設けられていたところもあるように，こうした場所では安全性に対する意識の高い購買者が多くいることがうかがわれた。

地方市場においても，写真 1 に見られるようにパック包装された果物が販売されていたことから，こうした場所においても消費者の安全性への意識が高まっていると言えるのではないだろうかと感じた。

バンコクはタイの中でも特に外食文化が根付いており，写真 2 のような屋台が多くみられる。値段も 1 皿 30 バーツ[3]程度と安い。他方，大型商業施設にもフードコートがあり，こちらも多くの人が利用しているが価格は 1 皿 50 バーツと屋台に比べると少し高めであった。レストランに入ると値段は 1 皿 100 バーツ前後となり，さまざまな価格帯の外食産業構造が併存している状況がある。

写真 1：タイ北部－農村部の市場

写真 2：バンコクの屋台

写真 3：タイ料理
上：トム・ヤム・クン
左：パット・パック・ブン（空芯菜炒め）
右：パット・タイ（タイ風焼きそば）
下：ソム・タム（青パパイヤのサラダ）

**今後の展開・反省点**

今回は，語学研修が主であったため，バンコクを離れることができず，踏み込んだ調査を行うことができなかった。そのため，本報告書では，派遣期間中に食べ歩きや市場へ赴いたことをもとに，バンコクの食事情を紹介させていただいたが，バンコクの都市としての規模は非常に大きく，また食料の幅を大きいことから，自分ひとりの力ではその概観すら捉えられなかったと痛感させられた。

[1] 日本語でいうところの，“熱い”と“厚い”といったような具合である。
[2] 有気音とは息を吐きながら発音するもので，無気音とは息を吐き出さずに発音するものである。
[3] 1 バーツは約 3 円。

その一方で，まずはしっかりと生産現場の現状を捉えてから，消費の場としての都市を見ていく必要があると感じることができたので，今後の調査は今回身につけた語学力をもとに，農村へ調査に入り，生産現場の現状，そこで暮らす人々の姿を捉えていきたいと考えている。

話しは変わるが，今回の派遣の終わりごろからバンコクではデモ活動が展開されていたが，わたしの帰国した後にデモが激化し，死者を出すまでに至っている。今後の調査では，安全にも気を付けて調査をしていきたい。

写真 4：デモの様子（バンコク・アソーク）